

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
「心豊かに表現する子」	「地域の魅力を知り、人とつながる・遊びがにつながる」	自分の思いを言葉で伝えたり、自分なりの表現で表したりしながら園生活や遊びを楽しんでいる	その子の思いに沿った言葉を知らせる援助を積み重ねてきたことで、自分から思いを出して園生活を楽しみ、自信をもって生活している。また、行事や自然物に触れる体験を積み重ねることで、心が動き、その子なりの表現が豊かになった様子も見られた。一方で、言い方が強かったり、上手く伝えられずもどかしさを感じたりして、トラブルになる姿も見られ、保育者の仲介が必要と感じる場面が多々見られる。	B	A	・子ども一人一人の思いはいろいろあり、やりたいうことをくみ取って支えている様子がよくうかがえる。 ・してはいけないことはいけないとはっきり伝えることを臆することなく、押さえてほしい ・学年の垣根なく全体で活動している様子がうかがえる。全体の雰囲気や、遊びで協力している様子が良い ・多様な考え方や家庭がある中、園運営が難しくなっていると思う。友達を思いやる気持ちや様々な事に取り組もうとする意欲を育てていきたい ・トラブルの経験は必要だと思う。子どもが納得できるよう、保育者に仲介をお願いしたい	・子ども一人一人の思いをくみ取り、思いが表出できるような支援を継続する。トラブルになる姿も受け止め、その個が友達との関わり方や相手の思いへの気づきが育まれるような支援をし、子ども自身が「納得できる」ことを大事にしていく ・友達との遊びや生活の中で、物や人を大切にする思いが育まれるようまずは職員が意識して行い、子ども達にも丁寧に伝えていく ・生活や遊びに向かうための体力の向上を目指し、体を動かす活動（リズム遊びや散歩）を意図的に計画し取り組む
		自ら遊びに向かい、「もっとこうしたい」と試行錯誤したり「やってみよう」と挑戦したりしながら夢中になって遊んでいる	子どもの思いを実現する援助と環境設定を積み重ねてきたことで「こうしたら楽しそう。」と自分なりに遊びを進める力が育ってきている。成功体験を積んだことにより、諦めない姿も見られるようになってきた。夢中になって遊ぶ姿も見られるが遊びが継続せず途切れてしまうこともあり、保育者が一緒に遊び子どもの思いから遊びが継続していくような支えが必要である。また、疲れやすく午前の活動が終わる頃に座り込んでしまう子や横になってしまう子もいる。	B	A		
		友達の思いに気づき、良さを認めたり受け入れたりしながら、一緒に遊びを進めている	気の合う友達とのやり取りの中では、相手の気持ちに気付くことができている。友達の良さにも気づき、素直に「すごい!」「教えて。」と伝える姿も見られる。「友達を受け入れる」とはどういう姿かを、職員間で共通認識していきたい。また、友達の良さを素直に認められない子へは、自分の良さを自覚し自信がもてるよう支える必要を感じている。	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びの中での学びやこれまでの経験を踏まえた環境を用意することで、子ども達の活動や遊びが展開されている	職員間で発達に合った遊びや環境を確認したり、月案週案で立案した保育内容を子どもの実態に合わせて実践したりした。経験したことや考えたことを活かしながら、その子なりに遊びへ向かう姿が見られた。	B	B	・防災の面で「自分の命は自分で守る」意識づけをするような取り組みが行われているのがよい	・保育者が一緒に遊び、子どもの興味関心や面白がっていることを捉え、子どもの意欲を引き出すようなリアクションと環境作りを行う
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活状況に考慮し、安心して園生活が送れるよう、子どもや保護者の思いに寄り添った関りや援助を行っている	送迎時や面談等で保護者の思いをくみ取ったり担任の思いを伝えたりしながら、個々の育ちを共有することにつなげた。また、子ども一人一人の育ちや実態を職員間で把握周知し、個や家庭にあった丁寧なかかわりをした。子どもたちが安心できる場や人を見つけ、生活している。	A	A	・自然災害に関する心配がある。様々な場面での訓練を継続して行って欲しい	・子ども一人一人の家庭環境の様子を職員間で共有し、子どもが園で心地よく安心して生活できるようなかかわり方を確認し、職員の誰もが同じ支援をする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	遊びの展開や継続のための片付け方やとっておき方を子どもと考えたり、遊び出しの環境や興味関心に合わせた環境の再構成を繰り返し行っている	前日の遊びから今日の遊びを予想し、願いをもちながら遊び出しの環境設定に取り組んできたことで、子ども達の遊び出しがスムーズになった。片付け方やとっておき方は子どもと相談しながら思いがつながるように取り組んできた。遊びが継続する子も見られたが、取っおいた物の活用や遊びの再構成へ活かすことが難しかった。遊びの見通しをもちリアルタイムな環境の再構成が必要である。	B	B	・食に関しては家庭での差がある。園で体験することで、食材や味覚に関する体験が豊かになるのが良い	・遊びの継続に気持ちが向くように、子ども達が「今日楽しかった。」と遊びに満足し、更に遊びが発展して行うような環境作りに取り組む
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園内の危険箇所を記した『ヒヤッぷ』での安全点検や『ヒヤリハット』の共有を随時行い、子どもが安心、安全な園生活を送ることが出来ている	園内の危険箇所を記した『ヒヤッぷ』は保育者同士で確認してきたが、子どもにも伝えていくことで、子ども達自身の気づきや危機管理意識が身につくように思う。子ども達との話し合いを設けたことで、子どもたちなりに考え行動に移す姿も見られつつある。	B	B	・食物アレルギーへの対応やコロナ禍での活動制限があった中、食育活動を工夫して行って園の努力を感じる	・園内の危険箇所が記してある「ヒヤッぷ」を利用した安全確認を継続しつつ、子ども自身様々な場面について考えたり対応したりすることができるような関わりと訓練に取り組んでいく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動や保健活動を通して健康に過ごすことの大切さを知り、自ら「食べてみよう」「やってみよう」と思えるような関わりや援助を行っている	園内の栽培物や果実を活用した食育活動を行ってきた。育てたものを友達と一緒に収穫したり調理したりすることで、旬のものや家では食べないものを口にする体験につながった。子どもからの発信で取り組むことができたが、収穫やクッキングのタイミングを保育者が更に見通しもち、保育活動として計画し実行する意識が必要だった。	B	A	・特別な支援が必要な子と健常児が共に保育を行っている温かさを感じる。支援が必要な子も健常児と共に過ごすことで、子ども達もその子へのかかわりが上手になっていると思う	・「美味しそう」「食べたい」と子ども達の食への意欲が膨らんでいくよう、野菜の栽培や果物の収穫等、見通しをもった計画を立てていく ・友達と一緒に楽しく食べる、美味しさを共有することができるよう、クッキング計画も引き続き大事にしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	家庭や専門機関と連携し情報を共有したり、専門講師とのカンファレンスでの学びを活かしたりして、個の特性に合わせた支援を行い子どもの育ちを支えている	カンファレンスを通してその子の特性や具体的な支援を学び、関わり方の振り返りや見直しをすることで、次の実践に自信をもって取り組むことができた。支援が必要な家庭には専門機関との情報共有を積極的に行い、支援に活かすことで、子ども達の安定につながりつつある。	A	A	・研修の内容ややり方に関しては、実際その場に参加しているわけではないのでよくわからないが、話し合いを積み重ね、努力している様子は伝わっている	・支援が必要な子や家庭に係る諸機関との情報共有を継続していく。また、連携を取りながら切れ目のない支援を検討、実施していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員一人一人が『自分ごと』と捉えて行動することで、様々な取り組みが円滑に行われ、互いに認め合い支え合える風通しの良い職場環境となっている	職員同士で声を掛け合うことが不足し行事運営に携わることがあったため、話し合いの機会を増やした。職員同士の関わりを深めることで、困った時の支え合いができるようになった。わからないことを声に出す職員も「自分事」として取り組むことができるための、伝達方法や話し合いの工夫の必要性を感じている。	B	B	・保護者とのコミュニケーションはよくできていると思われる。保護者も心強く感じていると思う	・話し合いの機会を随時設けることを継続し、行事の企画や活動内容を伝え合い、職員間で共有することができるようにする。また、気付きや困り感を安心して声に出せるよう関係作りを心がける
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマに沿った視点で公開保育を行い、子どもの姿を多面的に捉えることで、保育改善と質の向上につながっている	事前研修、事後研修で視点を明確にし、誰もが成果と課題が理解でき翌日の保育に活かせるようにした。話し合いの進め方を研修部で話し合い、記入したふせんの活用を行ったところ、職員が意見を積極的に出すようになりつつある。公開保育を通して保育提供者以外の職員も自分の保育の振り返りをする機会となっており、保育改善に活かされている。子どもの姿を多面的に捉え、子ども理解を今後も深めていく。	B	B		・すくすくカード（どこで・どんなことをした・充実ポイント等）を利用したミーティングや園内研修で子どもの姿を語り合い、子ども理解を深めていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	教材研究を定期的に行い職員間で学び合い、子どもの遊びがさらにおもしろくなったり発展につながったりするよう実践に活かしている	企画した教材研究を行ったことにより、保育の中で気になった物やことに関して「知りたい」「教えてもらいたい」思いが沸き、職員間で声を掛け合う姿が見られるようになった。保育者の教材に関する知識や技能が向上し、保育に活かす様子も見られている。子どもの興味関心に合った遊びを追求するには、常に学ぶ姿勢が大切だと感じている。	B	A		・子どもが「もっとやりたい」と遊びに夢中になれるような環境を用意するために、今後も定期的に職員同士で教材研究を行い教材への理解を深めていく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの姿や教育・保育活動に興味や関心を持ってもらえるよう、保護者への伝達の仕方（ボードやお便りの書き方・伝え方等）を工夫している	日々丁寧に子ども達の遊びの様子をボードやドキュメンテーションで伝えている。「写っていた」で終わらず、保護者に教育保育や子どもに関心をもってもらえるよう、掲示する写真に、遊びの中で学びについてのコメントも入れたり、保護者が子どもに「何したの?」「どうやったの?」と聞きたくなるような書き方の工夫を行っている。	A	A		・ドキュメンテーションやボード等を通じて、園の教育保育活動への理解につなげることや、子どもの姿や育ちを伝えることを継続しつつ、保護者も子ども同様感動体験が味わえるよう、園の活動に参加できる機会を増やしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	『東豊力』を育むための教育・保育活動や年間計画に沿った取り組み、また園や小中学校の職員、園児、児童同士の交流が行われている	近隣校の公開授業や夏季合同研修に参加し、意見交換を行い職員間の交流をもつことができた。中学校とは遊難訓練（東豊田中央）やクリスマスカードの交換（東豊田、東豊田中央）などで子ども同士の交流ももてた。小学校の授業参観への参加では、幼児教育の在り方や幼小接続の大切さを振り返る機会となった。今後は小中学校へ訪問して児童、生徒、園児同士の交流がもてる機会を増やし計画的に進めていきたい。	B	B		・近隣校の職員にこども園の生活や遊び、子どもの姿に関心を寄せてもらえるよう、研究保育や園行事の案内を直接届けに出向き、数多く参観してもらえるように働きかけていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域資源や人材を活かした行事や活動が行われ、子どもが地域の良さを知り、もの、こと、人に親しみをもち関わっている	地域や園外の人材の力を借りて様々な活動に取り組むことができた。TOHOコミュニティの人材リストを活用しながら地域とのつながりを深めていきたい。（東豊田中央）地域の方との交流を行事のみで終わらせず、子どもからの発信や気づきから4回ほど交流する機会を設けたことで、親しみをもって地域の良さを知ることにつながっている。子どもの体験を通して保護者も地域の良さを感じている。（東豊田）	A	A		・今年度かかわりを深めることができた「たけのこ先生（石川さん）」との交流を継続すると共に、園外で出会う地域の方や他園の園児との交流などを大事にしていき、親しみやつながりがもてるようにしていく